

三宅島施設園芸作物の安定生産による収益確保

対象集団 三宅島営農研究会(7人)、三宅島パッションフルーツ生産者部会(8人)、
認定農業者(15人)

- ・三宅島営農研究会：キキョウラン等の切り葉類を市場出荷する生産者組織
- ・三宅島パッションフルーツ生産部会：パッションフルーツを生産・販売する生産者組織

地域の紹介

三宅島の農業は、2000年の噴火活動で発生した降灰、泥流及び火山ガスによって壊滅的な被害を受けた。その後5年間続いた島民の島外避難期間中に、島内の農地の荒廃が進んだが、帰島後、農地及び農道等が災害復旧事業等により復旧。さらに、農業用水の安定供給に向けて、貯水池や送水管の復旧・整備が進められてきた。

三宅島の販売農家数は47戸あり、キキョウランやコルディリーネ等の切り葉類、特産のアシタバを市場出荷している。また、サトイモ、キヌサヤエンドウ等の地場野菜は、島内商店及び共同直売所等で販売し、地産地消を行っている。パッションフルーツについては、島内外の一般需要や観光客のお土産向けに販売しているほか、加工品の原料としても出荷している。

- ・農家戸数：102戸　　・販売農家：47戸（2015年農業センサスより）
- ・農業産出額：244百万円（平成29年東京都農産物生産状況調査）
- ・産出額順位：①アシタバ、②コルディリーネ、③キキョウラン

選定理由・目標

1 選定理由

噴火前の主要作目であったレザーファン等の切り葉類は火山性ガスに弱かったことから、ガスに比較的耐性のあるキキョウランおよびパッションフルーツが導入され、島の基幹作目として定着してきている。

しかし、キキョウランは、カイガラムシやハダニ類の病害虫被害が多く、出荷量の伸び悩みが見られるなどの課題がある。また、パッションフルーツについては、生産者の栽培技術や品質の向上、安定生産、島内外へのPRや生産量に見合った販路開拓が課題である。

これらの農業経営上の課題を解決し、生産者の収益を確保するため、本課題を選定した。

2 目標

栽培技術及び品質の向上並びに安定生産による収益の確保

- ・キキョウラン：生産量

H28…30,000本/10a・年 → R1…40,000本/10a・年 → R2…45,000本/10a・年

- ・パッションフルーツ：生産面積 H28…30a → R1…40a → R2…50a

：島外販売拠点 H28…4箇所 → R1…5箇所 → R2…8箇所

活動の体制

三宅事業所普及指導センターを中心に、関係機関である三宅島農業振興会、三宅村役場観光産業課、三宅支庁産業課と連携して取り組んだ。

活動の概要

1 キキョウランの収益向上

(1) キキョウランの栽培技術向上、病虫害防除技術向上支援

- ・毎月1回、定点としている農家圃場で病虫害発生状況調査を実施し、病虫害のステージ別の薬剤防除効果を考慮した防除暦を作成して防除指導を徹底した。
- ・適期収穫やハウス内換気などの栽培管理についても指導を行った。
- ・北足立市場(ビクトリーブーケプロジェクト事務局)と島内生産者との調整を行った。

2 パッションフルーツの安定生産

(1) 栽培技術向上、病虫害防除技術向上による生産拡大支援

- ・果実への網袋掛けによる品質向上に取り組むとともに、東京都エコ農産物の認証取得支援のため、土壌診断を行い、適正な施肥を指導した。
- ・ネコブセンチュウ等の病虫害の発生状況の把握とその対処法について検討した。病害が多発する時期には巡回を強化し、灰色かび病や菌核病の早期診断及び対策に関する指導を徹底し、被害が最小限となるよう努めた。
- ・生産者の高齢化等に対応するため2年生株の活用など労力軽減対策を検討した。

(2) 生産者組織支援による販路拡大

- ・生産部会を通じて、三宅村と友好都市である東京都小金井市と群馬県水上町の農産物直売所への働きかけにより島外の販売拠点の定着化を支援した。
- ・生食用としては出荷しきれないB・C級品について、加工原料としての出荷を拡大するため、果汁加工会社へのPRと出荷契約締結に関して支援を行った。

成果

1 キキョウランの収益向上

カイガラムシやハダニなどの発生時期の把握と、これをもとにした有効な薬剤による適期防除、適切な栽培管理により収穫量向上が図られ、10a 当たり4万本まで収穫量が増加した。また、ここ数年、関東東海花の展覧会においても連続して入賞を果たすなど、品質についても高い評価を受けている。さらに、国際的なスポーツ大会で用いられるビクトリーブーケへの葉材提供により、キキョウランのPRを促進。最終的に2020オリパラ大会におけるブーケの葉材には採用されなかったが、キキョウランの認知度向上につながった。



発生したカイガラムシ



ビクトリーブーケ



薬剤防除効果を確認する生産者

2 パッションフルーツの安定生産

(1) 栽培技術向上、病虫害防除技術向上による生産拡大支援

部会の月1回開催と会員間の圃場巡回視察を支援し、会員間の栽培技術の情報共有や意見交換が活発化、生産意欲の向上に繋がっている。収穫方法については、従来の仕立て棚の下に網を張る方法から、1果ずつの網袋掛けによる方法を導入した結果、落下衝撃による果実の傷や酸度上昇が抑制され、品質向上が図られた。部会員のうち7名が東京都エコ農産物認証を取得し、適正施肥や減農薬栽培につながった。

病虫害防除については、アザミウマの発生状況調査を実施した。アザミウマの増加時期を把握し、薬剤散布時期の目安を示したことで傷果の発生数が減少した。

労力軽減については、3戸の農家が2年生株の利用に着手した。

現在（令和元年）の生産面積は、40aに増加した。



部会員間の圃場巡回検討会



1果ずつ網袋掛けした果実



1年生株（左）と2年生株（右）

(2) 生産者組織支援による販路拡大

都内の直売所4箇所（立川市、小金井市、三鷹市、国分寺市）及び都外の直売所1箇所（群馬県みなかみ町）の計5箇所での島外出荷販売が実現した。

島内販売では、夏祭りやイベントでの果実やジュースの販売に部会として積極的に取り組むようになり、さらに、三宅島のパッションフルーツを宣伝するため、補助事業を活用してパンフレットを作成、販売PRに活用している。

加工用販売先である日本果汁（株）及び宝酒造への安定出荷が定着した結果、B・C級品を確実に販売できるようになり、収益性の向上に繋がった。今年の販売状況は、販路は加工用（日本果汁）が最も多く、ついで贈答用箱（個人出荷）、袋入り（商店等出荷）の順となっている（三宅支庁調べ）。



JA むさし小金井店での販売



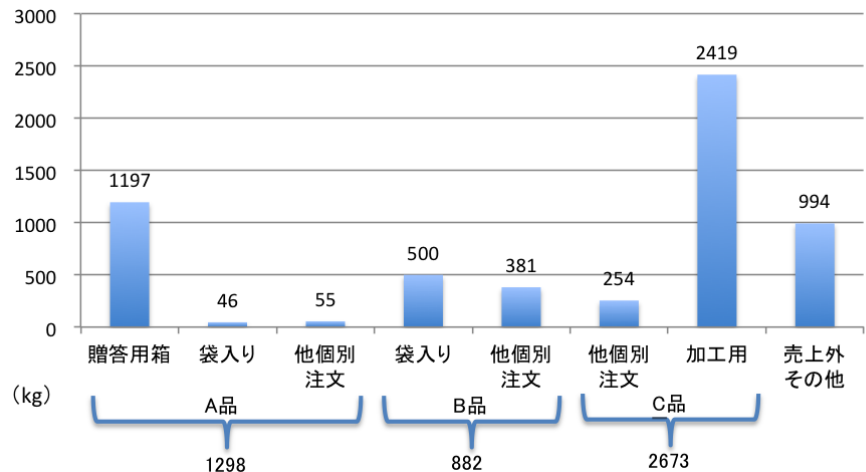
島内夏祭りでのジュース販売



部会で作成したパンフレット



宝酒造で製造されたりキュール



2019年度パッションフルーツ生産部会の販売状況

残された課題

1 キキョウラン

キキョウランは、定期的に収穫することで安定的な収入が確保できる品目であるため、経営モデルを育成し、その有利性を示すとともに、新規就農者を含め、キキョウランの新規生産者を増やすことにより、三宅島のキキョウラン産地力を強化していく。

さらに、キキョウランに続く新たな基幹作目となる切り葉・切り枝品目を探索する。

2 パッションフルーツ

技術的課題（夏季の高温障害、垣根栽培、年2回出荷等）については、三宅事業所研究部門と協力し、課題解決を進めていく。また、ネコブセンチュウの大きな被害は見られていないが、長期作付圃場ほど密度・被害が多い傾向であることから、警戒を続けていく。労力軽減については、2年生株の適正な利用法や生垣仕立ての検討などを進めていく。

後発で参入した生産者は販売面で苦戦しているため、今後、卸売市場や大口の飲食業など継続的に出荷できる販路開拓の支援を行う。また、島内の集出荷体制や出荷調整機能の整備についても部会での検討を働きかけていく。さらに、昨夏より新規就農希望者1名がパッションフルーツでの就農に向け2年間の研修中であり、今後の生産面積の拡大に寄与する可能性がある。引き続き、講義を担当するなど研修生への支援を継続していく。

また、三宅村は今後、カンキツ類の栽培振興を進める方針でもあることから、パッションと労力が重複しないカンキツ類の導入による収益力向上に向け、カンキツ部会の立ち上げ等の支援を行っていく。